

いやさか通信

(※「いやさか」とは、「栄える」という意味を持つ「弥栄」を平仮名で表記したものです)

弥栄町の人口	年齢	R6.1月末(R5.12月比)
	0歳～14歳	457人(+4)
	15歳～64歳	2,204人(-12)
	65歳～	1,845人(-2)
	合計	4,506人(-10)

【吉野小】安全マップの配布

1月29日、吉野小学校で安全マップの贈呈式が行われ、全校児童53人に配布されました。

吉野小学校は3月で閉校し、弥栄小学校と適正配置します。この安全マップは、6年間子ども達の登下校を見守ってきた弥栄駐在所の藤原警部補が、「子ども達の思い出になり、役立つものを残したい」と発案。地域の見守りボランティアの皆さんと一緒に通学路を歩いて危険箇所を確認し、清新高等学校の安見妃奈(ひな)さんが注意を促すイラストを担当し完成しました。マップには地域内の「こども110番のいえ」や見通しが悪い道、歩道が狭い所等注意が必要な場所が記されています。

生徒代表の森垣結心(ゆな)さんは「4月から新しい通学路になるので、マップを活用して気を付けていきたいです」と感謝の言葉を述べました。



左から森垣さん
安見さん、藤原さん

【いやさか溝谷】まちづくり交流会

2月10日、溝谷区公民館でいやさか溝谷地域づくり協議会主催のまちづくり交流会が開催され、30代から70代と幅広い世代の地域住民22人が参加しました。

交流会には、網野町島津地区で活動を行っている「しましまベース」の発起人で島津連合区長の三野徹男さん、伴走支援として島津地域に関わっている丹後暮らし探求舎の坂田真慶さん、小林朝子さん、島津地域住民の大垣優太さんをゲストとして迎え、地域活動を始めたきっかけや、活動の内容等トークセッション形式でお話を聞いた他、ゲストを交え「地域でやってみたいこと」をテーマにワークショップを行いました。

参加者からは「年代を超えた交流ができてよかった」、「もつと若い世代の考えを知りたい」、「溝谷地域が元気になるよう、一歩ずつ盛り上げられればいいと思う」等、前向きな感想が多く寄せられました。



上:トークセッション
下:やってみたいことのワークショップ

「詐欺に気をつけてね」 福祉施設で啓発活動

2月14日、バレンタインデーにちなみ、弥栄こども園の5歳児33人が特別養護老人ホーム満寿園を訪問し、チョコレートに「さぎにあわないうきをつけてね」などと自ら書いたメッセージを添え、利用者の皆さんに配りました。

受け取った利用者さんは「子ども達から元気をもらいました」、「詐欺にあわないように気を付けていきたい」と話していました。



メッセージを添えたチョコレートを手渡しする子ども達

【鳥取校区地域づくり協議会】料理教室

2月17日、弥栄地域公民館にて鳥取校区地域づくり協議会が主催する料理教室が開かれました。

飲食店の経営や調理師学校の講師の経験を持ち、移住者でもある三浦弘さんに講師を依頼。「どの家庭にもある材料で簡単に」をテーマに、だし巻き卵とごま豆腐を作りました。

講師によるデモンストレーションにて料理のポイントを教えて頂いた後、グループに分かれて調理を行いました。調理後、参加者同士の懇談会では自己紹介や料理についての質問もあり、アンケートでは「賑やかで楽しかった」、「ごま豆腐は短時間で簡単にできたので家でも作ってみた」と感想が寄せられました。



料理教室の様子

災害に強いまちづくりを目指して

本年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、近年全国で大雨や地震等の大規模災害が多様化、頻発化しており、防災に対する意識が高まっています。災害発生時に予想される被害に備えて万全の準備をしておくことや、日頃からの人と人とのつながりが重要です。

弥栄町内においても地域単位で独自の取り組みが行われていますので紹介します。

【鳥取校区】防災と地域づくり

鳥取校区（鳥取区・木橋区・和田野区）では、平成27年度に各区の避難所が弥栄小学校に統合されたことをきっかけに、3区でどのように避難所を運営していくか検討が行われ、校区合同の避難所運営訓練や運営マニュアルの作成を行ってきました。令和4年4月には協議会を設立し、防災部会を立ち上げました。現在は防災マップの作製に取り掛かっています。「防災意識を高めることが地域のつながりを強くする」と協議会は考え、住民同士の支え合いを大切にしています。

ゲームで学ぶ避難所運営

昨年の8月に実施された京丹後市防災訓練において、鳥取校区と摂南大学が連携した避難所運営ゲーム（HUG（Hinansyo Unei Game））が実施されました。HUG（ハグ）とは、避難者の年齢や性別、国籍等それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験できるゲームです。災害時のリアルな状況をイメージしながら、避難所の運営について学ぶことができました。



HUG（ハグ）の様子

【和田野区】防災講演会

和田野区では、昨年12月に与謝野町在住の防災士、坂中綾香さんを講師として呼びびし、災害時の身の守り方や備え方について講義を受けました。



防災資材の管理

京丹後市では令和5年2月から市内の避難所21箇所に防災倉庫を設置しています。弥栄町内においては吉野小学校、弥栄小学校、弥栄中学校の3箇所に設置し、段ボールベッドやパターション等、避難所資材が格納されています。また吉野校区では、各区が持っている防災資材の一覧表を作り、情報共有をしています。

